

北斗遺跡

北斗遺跡は釧路湿原の西側に位置しており、古代の 230 以上の住居跡のくぼみが残っています。訪問者は、この地を散策すると共に、住居跡の穴を学び、また遺跡の展示館で等身大の住居を目にできます。

北斗地域は、一万年以上前の旧石器時代から擦文時代（700－1,200）までのかなり長い間に生活されていたと考えられています。これまでの発掘で旧石器時代の火をたいた跡が発掘されており、縄文時代（BC14,000-BC300）の墓石や貝塚、それから擦文時代の機織り道具や繊維なども発掘されています。発見された住居跡のくぼみのうち、102 個は縄文から続縄文期（BC14,000－AD700）の円形で楕円の穴となっており、232 個は擦文時代の四角い穴となっています。これらの穴は、東西 2,500 メーター、南北 500 メーターの範囲にあります。この地域は、1977 年に国指定史跡に指定されました。

五つ以上の四角い穴の竪穴住居が修復されました。各々の四角い穴は 5-10 メーターの幅で 1 メーターの深さです。小屋の柱や梁には木の幹が使われ、地面にのばした厚い屋根には葦が使われました。内部には暖炉（調理火場）と就寝する場所があります。擦文時代の人々は典型的に川の側に住みサケやマス釣りをしていました。彼らは狩猟家や漁師、野菜収穫や各種穀物耕作で糧を得ていました。最終的に、何故これらの居住地が放棄されたのかは不明です。

史跡展示館は 4 月から 11 月の間開館しています。ここの展示物は土器や石器、また同地域の古代ジオラマ、実寸大の住居跡、遺跡出土の歴史的な資料です。また、同地及び人々の歴史についてのビデオも提供されています。